

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21223002	研究期間	平成21年度～平成23年度
研究課題名	社会性とメンタルヘルスの双生児研究－遺伝子と脳活動をつなぐ	研究代表者 (所属・職)	安藤 寿康（慶應義塾大学・文学部・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
○	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は双生児の社会的適応の形成に関して遺伝要因と環境要因の相互作用のメカニズムを、心理学的研究だけではなく遺伝学的研究と脳科学的研究を橋渡しして解明しようとする意欲的な研究であるが、当初の目標に対して心理学的研究には一応の成果が見られるものの、中核部分をなす脳機能研究の進展が頓挫しその目途が立っていないと考えられる。研究代表者からは残された研究期間内に遺伝子研究とMRIによる脳構造研究を当初の計画から大幅に変更、縮小し、また認知能力に差のある一卵性双生児を見いだすための調査も大きく変更して研究を遂行することとしている。しかし、実質的な研究期間は数ヶ月あまりしかないことを考慮すると、変更した研究計画を全力で行い、一定の成果を達成して頂きたいが、本年度当初に認可された研究費の一部の返上を行い、研究の収束を行うべきである。

【平成24年度 検証結果】

検証結果	平成23年度の研究進捗評価で問題としたように、研究の中核をなす脳機能研究は大幅に縮小変更され、双生児研究における遺伝子-脳-行動の「相互作用の因果」解析の重要部分が欠落している。本研究の当初の目的からは大きく逸脱して、遺伝-環境の交互作用に焦点を当てている。研究業績は極めて不十分であり、代表者が第一著者となった英文雑誌論文もなく、具体的な研究成果と明確に結びついた業績は心理・行動研究に偏っている。さらに、遺伝子研究を担った研究分担者の本研究に関わる主要な業績もない。
C	